

神波多神社の大絵馬

絵馬の歴史と神波多神社

様様の乗り物とされる貴重な動物、馬。雨乞いや防疫の際、古くから神社への奉納の対象となってきた①。しかし、生馬は飼育場やえさ確保の問題もあり、馬形や絵馬②に代用されるようになっていく。またとくに疫病は、都での流行を未然に防ごうと、「畿内十界」に疫神が祀られた③。平安時代の条例集『延喜式』にもみえる「神波多神社」④は、「十堺」の内「大和と伊賀の堺」⑤に建てられたものとされる。

室町時代頃から江戸、明治にかけて、絵馬の画題は多様化、大型化していく。それに対し各地の社寺では「絵馬堂」が造られた⑥～⑧。神波多神社や山添村内他社のように参籠所に掲げられている例は、この地域特有の形態といえる。

現存 20 点の内、以下に 3 点を解説する。

⑥ 火幡神社絵馬堂
(奈良県天王寺町)

⑦ 岡田国神社拝殿
(京都府木津川市)

⑧ 今宮神社絵馬堂
(京都府北区)

⑤ 『延喜式』巻二 臨時祭
與近江一山城與丹波一山城與伊賀一山城與美濃一山城與越前一山城與能登一山城與加賀一山城與近江一山城與丹波一山城與伊賀一山城與美濃一山城與越前一山城與能登一山城與加賀一山城

④ 『延喜式』卷九 神名帳
神波多神社
大月次
夜奈布山神社
並名神大月
春有祭神四座
次神音

③ 『続日本紀』宝亀元(七七〇)年六月甲寅条
甲寅祭 疫神 於京師 四隅 畿内 十堺

② 日本最古の絵馬
天平九(七七)年
平城京二条大路出土

① 『続日本紀』文徳天皇二(六九八)年四月戊午条
戊午 奉馬 于芳野 水分 峯 神 祈雨 也

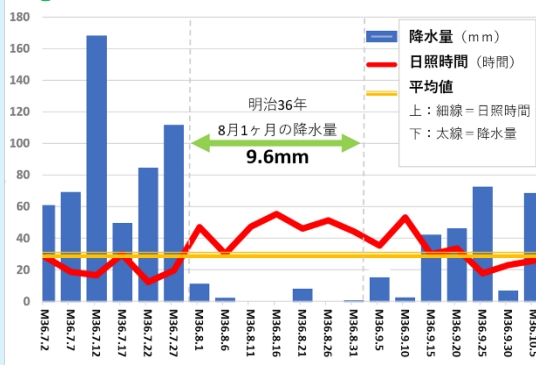


加藤清正虎退治の図

明治 36 (1903) 年 10 月奉納、180.5 cm × 123.2 cm、伊藤苔築画。槍の名人加藤清正図は、「武芸向上」の意味を込めての奉納が多いが、ここでは「雨乞願満」。明治 36 年の 8 月は全国的な旱魃で、日照時間は平年の 134% となった。一方で降水量は僅か平年の 8.8%、9.6 mm であった⑨ (彦根)。この絵馬は、旱魃に立ち向かった先人の当時の苦労を忍ぶ貴重な遺産である。



⑨ 明治 36 (1903) 年 10 月前 3 ヶ月の降水量・日照時間 (彦根)



『獅子舞図』にみる寄付者等の分布




天王の天狗獅子舞図

明治 31 (1898) 年奉納、376.7 cm × 190.4 cm、谷気長画。神波多神社現存最大の絵馬。江戸、明治期の 4m 級の大絵馬は、京都の有名社寺(北野天満宮や八坂神社)等には残されているが、奈良県内では珍しい。獅子の面や足の作風は、大津絵の影響を感じさせる。作者名上に「淡海」とあるのは「近江(現滋賀県)」のこと。80 名に及ぶ寄付者等の名は、県域を越え広域に及ぶ⑩。当時の地域交流を考える上でも、貴重な資料。



橋弁慶図

文久 3 (1863) 年奉納、182.1 cm × 90.2 cm、大北珉堂画。神波多神社現存最古の絵馬。残された絵師名⑪～⑮と落款(白文方印:雲林之印)⑯、⑰の特徴、また奉納年と生没年の関係から、珉堂作といえる。珉堂は、上野天神祭りだんじり(桐本)の胴幕を手がけた絵師として知られる。また、文久 3 年の年号は、天王祭りの神楽箱の年代とも一致する。珉堂は、かつて天王にもあったというだんじり作製のためにこの地を訪れ、その際この絵馬を奉納したのであろうか。伊賀を中心に活躍した珉堂の奈良県内唯一の作品。



⑪ 神波多神社



⑫ 浄瑠璃寺
(伊賀市稲見)



⑬ 九品寺
(伊賀市守田町)



⑭ 西蓮寺
(伊賀市長田)



⑮ 『精華帖』
(老夫婦)

それぞれの絵馬には、壮大な物語が秘められている。絵馬を見ながら、当時の賑わい、そして先人の込めたメッセージに今一度耳を傾けてみたい。